

石巻日日新聞

石巻日日新聞社
〒986-0874
石巻市双葉町8番17号
電話 0225-95-5231
ファックス 0225-94-4720
郵便振替口座 02240-3-4424

©石巻日日新聞社 2025

Hibi-net
https://www.hibishinbun.com

県東部 13日の天気



くもり 昼過ぎから雨。南の風。後、南東の風。海上では後、南東の風やや強く。波 1.5メートル 後 2.5メートル。

朝の最低 8℃ 日中の最高 11℃

降水確率	0-6時	06-12	12-18	18-24
	10%	20%	60%	50%

仙台

	14(月)	15(火)	16(水)
雨のち曇	9/17	曇一時雨	曇時々晴
	9/17	9/16	7/19

仙台管区気象台 12日 午前11時発表

明日のこよみ

※カッコ内は潮位(cm)
【鮎川】満潮 3:24(126) 16:24(125)
干潮 9:56(17) 22:03(55)
(提供・仙台管区気象台)

【石巻】日出 5:02 日入 18:09
月出 18:32 月入 4:50
(提供・国立天文台)

石巻魚市場

1キ、1650円の史上最高値



石巻魚市場(佐々木茂樹社長)に12日、主力魚種になっている養殖ギンザケが今季初めて入荷した。市場が始まって以来、最も遅い入荷になったが、身質や魚体は良く、買受人の評価も上々。入札では例年以上のご祝儀相場となり、1キ当たり1650円の史上最高値も飛び出し市場が活気づいた。

待ちに待った養殖ギンザケ入荷

同日の石巻魚市場には、同市鮎川浜の(株)文丸水産が育てたギンザケ約5キが入荷。水締めにして鮮度を保った「金華ざん」と呼ばれる同市場のブランドであり、陸送により午前5時ごろに到着した。選別機に掛けられた魚体は1・5キが主体。同7時に始まった競りでは、1キ当たり1585-1650円と同市場でギンザケの取引が始まって以来の最高値が続いた。今季の養殖ギンザケは、昨年末の高水温で氷締めされたギンザケが次々と選別機に掛けられていった。

成育が遅れが見られたが、3月に入って水温が上がり、順調に成長にずれ込むのは、同市

花や地元産材ずらり 季節に彩り「森林の市」

13日は恒例の餅まき

石巻地区森林組合(大内伸之組合長)の「森林(もり)の市」が12日、石巻市大田の同組合敷地内で始まった。13日まで。庭木や季節の花、DIYに最適な木材などを求め、多くの来場者でにぎわっている。

毎年恒例の展示即売会。さまざまな苗木や花、木材が並ぶほか、木工教室(ミニ花)も並んだ。友人と訪れた同市

大街道西の女性(58)は「花台作りが目当てだったが、大好きな多肉植物が安く売っていて、2人で飛びついてしまった。たくさん育てて友人と分けるのも楽しみ」と笑顔で語っていた。13日は午前9時から午後1時まで。10時から本マクロの解体ショーがあり、同11時半からの餅まきで当たり券を手にとると、マクロのサクがもらえる。【泉野帆薫】

慶長使節ゆかりの地から親書

ハボンさんら石巻市訪問

「支倉都市同盟」の結成提唱



親書に目を通す(左から)齋藤市長、ハボンさん、フェルナンデスさん、ハボン・ハセクラ後援会の白田正樹会長

慶長遣欧使節団を率いた支倉常長ゆかりの県内を走ったスペインのコリア・デル・リオ市民は11日、同市のモダスト市長の親書を齋藤正美石巻市長に届けた。親書では歴史的な結びつきを土台に交流と発展を図る「支倉都市同盟(仮)」の結成が呼び掛けられ、齋藤市長は「先人の偉業を伝えることは重要」と理解を示した。

モダスト市長が提唱する支倉都市同盟は、ゆかりの3大陸5力国14都市以上で結成する想定。商業交易や観光

のカルロス・ハボンさん(50)とエドワルド・フェルナンデス・アゲラさん(53)、日本側のハボン・ハセクラ後援会関係者など。同市にはスペイン語で「日本」を意味する「ハボン」姓の人が700人以上おり、協会は使節団の子孫として石巻市などで交流活動を行ってきた。

取材にハボンさんは「絆が深まったのが成果」と述べ、不安定な世界情勢を踏まえ「平和のメッセージを伝えることもできた」と感慨深げ。フェルナンデスさんは「ますます日本との友だちが増えた。関係者に感謝したい」と話していた。

【熊谷利勝】

まちなかで春を楽しみ 桜満開の秋田



13日まで一般開放